

日本史の暗記

政治史 1～ 96

文化史 97～128

平氏政権⑧ 《平氏政権》 平治の乱後、¹清盛は太政大臣になり、²内大臣となった子の重盛^{しげもり}をはじめ一族も高位高官にのぼって平氏の栄華は絶頂期をむかえた。その邸宅地³にちなんで清盛は六波羅殿^{ろくはらのどの}とよばれ、最高権力者でありながら出家したために入道相国^{にゅうどうしやうこく}ともいわれた。またむすめの徳子⁴（建礼門院^{けんれいもんいん}）を高倉天皇^{たかくら}の中宮^{ちゆうぐう}に入れ、幼少⁵の安徳天皇^{あんとく}が即位するとその外戚になった。いっぽう畿内・西国⁶の武士団を荘官^{じとう}の一つである地頭^{じとう}に任命してかれらを家人^{けにん}（従者）⁸にするとともに、20カ国以上の知行国^{ちぎやうこく}、500余カ所の荘園^よを有して経済的基盤⁷をかため、さらに大輪田泊^{おおわだのとまり}（現、神戸市）を修築し、瀬戸内海航路を整備^{につそう}して日宋貿易を推進した。

第4章 鎌倉時代

1. 源氏の政権

源平争乱⑥ 《源頼朝》 ¹1177年、鹿ヶ谷^{ししが たに}の陰謀^{る けん}が露見^{なりちか}して近臣^{しゆんかん}藤原成親・僧俊寛は流罪²に処せられ、後白河法皇^{ゆうへい}は幽閉された。しかし1180年には法皇の子である以仁王^{もちひとおう}が平氏打倒^{りやうじ}の令旨^{よりまさ}を出して摂津源氏の源頼政^{きよ}とともに挙兵³すると、伊豆の源頼朝^{へい}（義朝の子）、木曾の源義仲^{よしなか}が立ち上がり、源平争乱⁴（治承・寿永の乱）がはじまった。平氏は同年、福原京遷都^{ふくはらきやうせん}を行なったが半年で京都にもどり、やがて安徳天皇⁵を奉じて西国^{ほう}に都落ちし、1185年、源義経⁶（頼朝の弟）らの軍によって長門の壇の浦^{ながと だん うら}で滅亡した。

源頼朝⑤ 頼朝¹は1183年、寿永二年十月宣旨^{せんじ}により東国支配権²を得、1185年には守護・地頭^{しゆご じとう}を任命する権利、地頭^{たん}が1反あたり5升^{しやう ひやうろうまい}の兵糧米^{ちやうしゆう}を徴収する権利、国衙^{こくが}の在庁官人^{ざいちやうかんじん}を支配する権利を得て、全国にわたる支配権を獲得した。また謀反人^{むほん}となった源義経³をかくまったとして奥州征討^{おうしゆうせいとう}を決行し、藤原泰衡^{やすひら}を滅ぼして全国を平定した。頼朝は、1190年には右近衛大⁴将^{うこのえのたいし}、1192年には征夷大將軍^{よう 5}に任命され、ここに鎌倉幕府が成立した。

ギリス・フランスとも同様の条約をむすび（安政の五カ国条約）、⁶外国
奉行新見正興は批准書の交換のため、勝義邦（海舟）の操船する咸臨丸に
ずいこう 7 ひょうご
随行されて渡米した。なお貿易開始後の1865年、欧米列強は兵庫沖に艦
隊をおくって条約の勅許をかちとり、⁸1866年には改税約書が調印された。

日米修好
通商条約⑥

¹通商条約では神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港と江戸・大坂の開市が
さだめられた。²通商は自由貿易とされ、³開港場に居留地をもうけて外国
人の旅行を禁じた。しかし⁴領事裁判権をみとめ、⁵貿易章程の規定により
関税自主権を失い、⁶自主的には改正できない不平等性をもっていた。

開港⑦

《開港》 開港にさいしては¹神奈川は横浜に、兵庫は神戸に変更され、
新潟は開港がおくれた。このうち²横浜での貿易が多く、相手国ではイギ
リスが先頭にたった。³輸出品は生糸・茶・蚕卵紙・海産物、⁴輸入品は毛
織物・綿織物・武器・艦船・綿糸で、当初は大幅な輸出超過となった。

貿易によって⁵製糸業が発達したが、綿織物業は⁶圧迫された。金銀の比
価が外国で1：15、日本で1：5であったため大量の金貨が海外に流出
し、幕府はその対策として万延小判に改鑄した。また物価が高騰したた
め、⁷1860年、雑穀・水油・蠟・呉服・生糸の五品江戸廻送令を出した。

12/20

将軍後継
問題⑤

《動乱のはじまり》 ¹13代家定には子がなく、後継をめぐって²越前藩
主松平慶永・薩摩藩主島津斉彬らは一橋慶喜（水戸藩主斉昭の子）をお
して一橋派とよばれ、³紀伊藩主徳川慶福をおす譜代大名ら（南紀派）と

幕末動乱
（前）⑤

対立した。後者は⁴彦根藩主井伊直弼を大老、⁵慶福を14代家茂とし、¹直弼
は反対派大名を処罰して越前藩士橋本左内や長州藩士吉田松陰を処刑し
たが（安政の大獄）、²1860年、水戸脱藩の浪士に暗殺された（桜田門外の変）。
ついで³老中安藤信正は公武合体運動をすすめ、孝明天皇の妹和宮
を家茂の夫人にむかえたが、⁴坂下門外の変で負傷して失脚した。⁵1862年

文久の改革⑤ には島津久光が勅使を奉じて幕政改革を要求し、幕府は¹松平慶永を政事

民権論⑤

民権論では¹中江兆民^{なかえちようみん}がルソーの『社会契約論』を漢訳した『民約訳解』^{みんやくやつかい}を、²自由党の理論指導者であった植木枝盛^{うえきえもり}は『民権自由論』を著した。
³しかしダーウィンの進化論に影響されて社会進化論をとらえた加藤弘之が『人権新説』で天賦人権論を批判すると、⁴馬場辰猪^{ばばたつゐ}は『天賦人権論』、⁵植木枝盛も『天賦人権弁』^{べん}を著して民権論を擁護^{ようご}した。

国権論④

国権論では¹徳富蘇峰^{とくとみそ ほう}が民友社^{みんゆうしや}に拠^よって雑誌『国民之友』^のを発刊し平民的欧化主義(平民主義)を説いたのに対し、²三宅雪嶺^{みやけせつれい}・志賀重昂^{しがしげたか}は政教社^{せいきやうしや}から雑誌『日本人』^{こくすいほ ぞん}を発刊して国粹保存主義を説き、また³陸羯南^{くがかつなん}は新聞『日本』⁴を発刊して国民主義を説いた。さらに日清戦争後、高山樗牛^{たかやまちよぎゆう}は雑誌『太陽』を発刊して日本主義を説いた。

大正・昭和
の思想 ③

《大正・昭和の思想》 大正時代には¹吉野作造^{きちのさくぞう}が雑誌『中央公論』で²民本主義^{みんぽん}をとらえて大正デモクラシーの中心となるいっぽう、ロシア革命後にはマルクス主義・共産主義思想がひろまり、³河上肇^{かわかみはじめ}は『貧乏物語』を著した。マルクス主義は右翼・国家主義にも影響をあたえ、³北一輝^{きたいつき}は『日本改造法案大綱』^{たいこう}を著して昭和の国家社会主義を指導した。

2. 教育・学問

教育制度⑧

《教育制度の近代化》 ¹1872年、フランスにならった^{がくせい}学制が公布され、²8大学区と大・中・小学校の設置がはかられ、²学制前文^{ぜんぶん}の『被仰出書』^{おおせいだされしよ}(³太政官布告^{たじやうかんぷこく})では学問による立身^{りつしん}が説かれた。さらに1879年にはアメリカにならった自由主義的な教育令、⁴翌年には改正教育令が公布された。⁵ついで1886年には森有礼文相のもとで学校令(帝国大学令・小学校令など)が公布されて各学校が体系化され、⁶義務教育^{じんじよう}も尋常小学校3・4年に定まった。⁷1907年には義務年限^{しゅうがく}が6年に延長されて就学率も97%をこえ、⁸1918年には原内閣が制定した大学令により公立・私立大学の設置が